

春の女神

ギフチョウ

ギフチョウをごぞんじですか。4月の中旬、天気の良い日に、近くの野山に出かけてみましょう。林の木々はまだ葉を落としたままで、明るい日ざしが地面にまで十分にさしこんでいます。そこにはスミレのなかまやかタクリ、シヨウジョウバカマなどの花が咲いています。

運が良ければ、黒と黄色のしまがたんだらになったはねを持ち、はねを広げると5cmほどのチョウが、これらの花を訪れるのを見ることができるとでしょう。これがギフチョウです。

ギフチョウの成虫は春早く、ソメイヨシノの花が咲くころに現われます。春早くに現われ、その姿が美しいので、「春の女神」とも呼ばれています。成虫が現われる季節

には、木々はまだ葉を広げず、林内には光がさしこみ、かタクリやスミレのなかまなどの早春季植物とよばれる草花が成長し花をつけています。これらの花蜜を吸うためにギフチョウが訪れます。また、ギフチョウの幼虫が食べるカンアオイのなかまの植物も春のうちに急速に成長します。カンアオイの

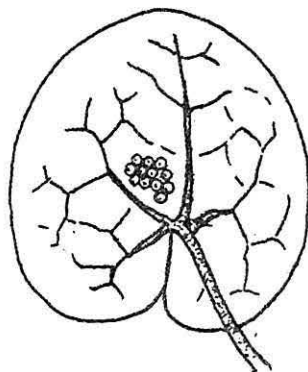


カタクリの花に来た
ギフチョウ

なかまの葉のうらに産みつけられた白くてまんまるい小さな卵から
ふ化した幼虫は、その葉を食べて成長し、

1ヶ月ほどで「サナギ」になります。

そのころには、木々の葉が伸びて光を
さえぎり林床が暗くなり、花も見られず
またカンアオイも成長をやめてしまっ
ています。そしてギフチョウは、サナギの
まま枯葉の下で夏を過ごし、秋を過ごし
冬をすごして翌春再び成虫となって飛び



カンアオイの葉のうらに
産みつけられたギフチョウの卵

出します。このように、ギフチョウは春から初夏にかけての短い間
に活動的な時期を終えてしまいます。

このような生活の周期を持つギフチョウは、落葉広葉樹林の林床
で春の短期間に成長し、花をつけそして散ってしまう早春季植物に
うまく対応していて、落葉広葉樹林の周期によく合ったチョウだとい
えるでしょう。

ゆっくりギフチョウをごらんになりたい方は、科学文化セ＝ター
ス階・自然史展示室の「森の昆虫」のコーナーへおいでください。
その「コナラ林」の所にオス・メス一対が展示してあります。

富山市科学文化センター

〒930-11

☎91-2123

富山市西中野町3丁目1番9号

昭和55年3月 / 日発行